

# 沼津高専だより

第113号

平成30年7月3日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



入学式



スポーツ大会



原付講習会



新入生宿泊研修

## 目次

## ☆新年度にあたって (年度方針等)

トビタテ!沼津高専 —海外渡航機会の整備—	……………	学校長	藤本 晶	…… 3
高大接続改革の高専教育への影響	……………	副校長 (教務主事)	小林隆志	…… 3
安心して過ごせる高専を目指して	……………	校長補佐 (学生主事)	高野明夫	…… 4
寮生会とともに築く学生寮を目指して	……………	校長補佐 (寮務主事)	川上 誠	…… 4
進歩し続ける専攻科を目指して	……………	校長補佐 (専攻科長)	稲津晃司	…… 5
1年生のやる気に刺激されて	……………	機械工学科長	三谷祐一郎	…… 6
今年度の電気電子工学科紹介	……………	電気電子工学科長	西村賢治	…… 6
新年度にあたって	……………	電子制御工学科長	鄭 萬溶	…… 7
学生の更なる学力向上を目指して	……………	制御情報工学科長	芹澤弘秀	…… 7
本年度の物質工学科	……………	物質工学科長	大川政志	…… 8
スタートに際して	……………	教養科長	佐藤 誠	…… 8

## ☆人事異動について

平成30年度 人事異動	……………	9
平成30年度 校務分掌・学級担任	……………	10
平成30年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員	……………	11

## ☆着任挨拶

人生を変えた沼津高専生との出会い	……………	物質工学科	三留規誉	…… 12
資源環境問題へ立ち向かうための研究と教育	……………	物質工学科	伊藤拓哉	…… 12
憧れの沼津高専へ	……………	教養科	小林美恵子	…… 12
魅力ある技術者に	……………	教養科	合田俊弘	…… 13
Choose life. Choose your future.	……………	教養科	小田昇平	…… 13
「身近な」物理	……………	教養科	設楽恭平	…… 13
まずは自己紹介	……………	教養科	端川朝典	…… 14
英語との関わりを通して	……………	教養科	西口美津子	…… 14
違う視点から見ると	……………	学生課長	小澤 強	…… 15

## ☆新入生から (入学にあたり)

未来の自分は	……………	機械工学科1年	細谷優華	…… 15
新入生として	……………	制御情報工学科1年	久保颯涼	…… 15
私の志すこと	……………	物質工学科1年	中村理来	…… 16

## ☆留学生から

もう一步の成長	……………	電気電子工学科3年	ジラウイト	ジラチウィ	…… 16
XIN CHAO!!! (はじめまして!!!)	……………	制御情報工学科3年	ディエップ	ミン タン	…… 16
こんにちは	……………	物質工学科3年	プリンヒル	ミカエ アナ シティン	…… 17

## ☆寮生会活動について

寮生会役員として活動することの意味	……………	機械工学科4年 寮長	秋山亜久里	…… 17
-------------------	-------	------------	-------	-------

## ☆教育後援会から

教育後援会は沼津高専の応援団です!!	……………	教育後援会会長	大川宏和	…… 18
--------------------	-------	---------	------	-------

## ☆三つのポリシー

## ☆お知らせ

平成30年度沼津高専1日体験入学のお知らせ	……………	22
平成30年度(8月~3月)行事予定表	……………	23

## 新年度にあたって (年度方針等)



### トビタテ！沼津高専 —海外渡航機会の整備—

学校長  
藤本 晶

沼津高専の卒業生は、就職する人は勿論のこと、進学を選んでもいつかは企業等で技術者として活躍することになります。活躍の場は国内だけではなく、アジアはもとより、欧米にも日常的に出かけるでしょう。時には技術指導などで長期間駐在することも珍しくありません。国内、国外の境界が無くなりつつあるのです。

このグローバル化への対応には、語学力の向上や異文化理解、渡航経験、それに留学生の受入れ等があるでしょう。英語に代表される語学力はグローバル化の中で大きなウェイトを占めますが、自分達とは異なる文化・風習を理解する方が、より本質的だと考えます。この異文化理解と語学力の向上とを同時に実現できるのが海外渡航です。

沼津高専では、海外での研修や海外インターンシップは緒についたばかり、海外の提携校は一昨年に協定を結んだ韓国のKumoh工科大のみ、そして受け入れている外国人留学生は一桁に留まっていることなど、グローバル化への対応は進んでいるとは言えません。学校のグローバル化を進めて状況を改善することは、沼津高専の大きな課題の一つです。

幸いなことに昨年度「高専4.0イニシアティブ」事業で、国際化に関する予算処置を受けました。この事業では「身近な国際化」をテーマに、海外提携校からの短期留学生を増やすための宿泊施設の整備や学内の標識の多

言語化、それに外国語の専門書や教材の整備などを進めています。この事業には今年度も引き続き予算処置されることになっています。

これに合せて、在校生の海外渡航の機会を作る計画を進めています。平成31年度から3年生で行ってきた合宿研修(スキー)と4年生の工場見学とを「海外研修旅行」に統合します。具体的にはクラス(学科)毎に4年生の前後期の間の期間に海外に出向いて、入出国手続きや異文化の体験、現地企業の見学や現地学生との交流を行うものです。

たとえ短期間であっても、若い間に海外に出かけることは、語学を学ぶ上で大きな刺激になります。学んできた英語が、実社会で通じたという喜びもさることながら、完璧な英語でなくても、また綺麗な発音でなくても通じることを実感するでしょう。そして語学力がもう少しあれば、より有意義な研修になったと、少し悔しい思いをするかも知れません。

さらには風俗や習慣の異なる社会を目の当たりにできます。街並み、食事、買い物、道路事情や鉄道など、少し街に出てみれば、日本との違いを肌で感じることでしょう。それらを通じて、母国日本を違った目で見られるのです。確実に視野が広がります。日本国内に留まっていたのでは、決して実現できないことなのです。

このための経費は、これまでの合宿研修と工場見学の経費の合計よりも若干増えますが、それだけの価値・意義はあると考えます。日本を離れた経験があるのと無いのでは大違いなのです。現実社会においては、ネイティブは自分達の英語を「日本語」か「日本語」くらいに思っていることを実感でき、将来海外で活動する際の自信に繋がるものと確信します。



### 高大接続改革の 高専教育への影響

副校長(教務主事)  
小林 隆 志

国際化、情報化の急速な進展により、将来の予測が困難な変化の激しい社会となっています。現在、「高大接続改革」といわれる高校-大学間の教育の不連続を解消するための教育改革が進行しています。これまでの日本の教育システムでは、高校で学ぶ内容、大学で学ぶ内容、そして社会で必要とされる内容が必ずしも一貫した内容となっていないことが問題とされてきました。このため、文部科学省は初等中等教育改革、大学教育改革、大学入

試改革の一体的改革を進めることにより、知識重視の教育から脱却して、生涯学び続け、主体的に考える力を持ち、未来を切り拓いていける人材を養成する教育の実現を推進しています。

高等専門学校は技術者養成を目的として創立され、設置の目的に沿った有為な人材を産業界に送りだしてきている実績があるので、上述のような問題はないように思えます。しかし、「高大接続改革」にともない、初等中等教育における学習指導要領が順次改訂されます。その中では、教科の内容が、学力の3要素「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」で再整理されます。またアクティブラーニングが積極的に導入され、また、情報を活用する能力も重視されて、情報通信技術(ICT)環境の整備も進められます。中学校における学習内容・方法

が変わっていく中で、高専もこの変化に無関心ではいられません。「中学－高専接続改革」を真剣に考える必要があります。

大学では、高大接続改革の中で、三つのポリシー「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)を公表し、この三つのポリシーに基づく継続的な教育改善を行うことが義務付けられています。高等教育機関である高専も同様です。今秋、沼津高専は外部の評価機関によって、三つのポリシーに従って教育体制が整備され、教育が実践されているかなどについての認証評価を受審します。教育する側からみた「教えるべき内容」でなく、教育を受ける側(=学習者=学生)の立場に立って、「何

を身に付け、何ができるようになったか」という視点で教育システムが構築されているかが評価の重要な点です。三つのポリシーは高専における教育改革の起点であり、入学希望者、学生保護者、中学校関係者、地域社会、産業界などに理解される内容であることが求められています。是非、保護者の皆様も「三つのポリシー」をご確認いただき、ご意見をいただければ幸いです。今年度から、全国高専で専門分野ごとに最低限学習する内容を定めたモデルコアカリキュラムがスタートしました。これを中核とし、沼津高専の特徴も反映させて、カリキュラムを継続的に改善してまいります。

これからも学生の視点での学校づくりを進めたいと考えています。引き続き保護者の皆様のご理解とご支援をお願いいたします。



## 安心して過ごせる 高専を目指して

校長補佐(学生主事)  
高野 明夫

本年度から学生主事を務めます。学生の生活指導等に皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。年度初めに当たり、交通指導、学生生活支援、就職活動支援の3点についてお伝えいたします。

例年同様、4月当初から、登校時の路上指導、自転車のツーロックと自転車・原付の学校登録、原付講習会等の指導を行いました。今年は4月23日から駐輪場を移設しており、その指導も行いました。新年度から原付で登下校する学生は24名で、4月14日の原付講習会では、座学のあと急ブレーキの掛け方、2段階の右折方法、ジグザグ走行等が指導されました。交通事故のない学校を目指して指導していきたいと思っております。

次に学生生活支援についてです。本校には学生生活支援室が設置されています。教員による学生相談は毎日、カウンセラーによる相談は月曜・木曜(要予約)、精神科医による相談は隔週土曜(要予約)で行われています。学生だけでなく保護者の皆様もご利用いただけます。今

年は、新入生の保護者の皆様に周知していただくことを目的に、4月27日に増田カウンセラーに新入生の保護者対象に「学生の悩みと成長」と題して講演会を実施いたしました。新入生に対しては、御殿場研修の2日目にあたる4月21日に、房間カウンセラーと増田カウンセラーにカウンセリング活動について講話をいただきました。学生が悩みを一人で抱え込むことのないよう支援して参ります。学資面では、従来の国立高等専門学校機構の授業料免除制度に加え、本校独自の奨学金制度である「五月の太陽奨学基金」があります。本校同窓会の奨学金制度もありますので、他の奨学金制度の条件を満たさない学生で、経済的な困窮が問題で勉強を続けられない心配がある場合には、こうした制度に申請してみてください。

最後に就職支援関係についてです。4年生・5年生・専攻科生を対象にした進路決定のための様々なイベントを実施しています。今年は2月28日に就職面接講座、3月3・4日に東京と名古屋の合同企業説明会、3月13日には沼津高専就職祭を実施しました。さらに2月22日には就活マーク講座、4月6日から5月25日までの約2か月間就職模擬面接を実施しています。就職希望者の全員が内定を得られるよう指導してまいります。

学生が安心して学校生活を送れるよう努めて参りますので、今後とも保護者の皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



## 寮生会とともに築く 学生寮を目指して

校長補佐(寮務主事)  
川上 誠

今年度より、校長補佐(寮務主事)を務めることになりました川上と申します。どうかよろしく申し上げます。

平成30年度の学生寮は、留学生6人を含む559人でスタートしました。寮生会では寮長の秋山亜久里君をはじめとする本部役員、各棟や各部署の役員が新学期の始まる前から積極的に活動しています。私は寮務担当を離れて20年余りが経過し、以前の寮運営とは異なる部分もあって勉強の毎日です。そんな私を支えてくれる役員は、他の寮生にとっても頼りになる存在でしょう。寮では日々新しい出来事が起こります。それらに対して、彼らの助けを借りながら、今年度の寮運営に当たっていきたく思います。

さて、1年生の寮生の保護者の皆さまには連休前に、2年生以上の保護者の皆さまには連休明けに寮内見学をしていただきました。お子さまの様子はいかがでしたでしょうか。部屋はきれいにされていたでしょうか。沼津高専の学生寮は、できる限り学生の自主性に任せていますので、生活の細部にまでは教職員はあまり口出しをしていません。しかし、中には生活のリズムが乱れる学生や、だらしない生活を送る学生がいますので、保護者の皆さまからもご指導していただくとともに、我々寮務担当も注意して見守ってまいります。

新学期が始まって1ヶ月半が経過し、様々な行事を行ってきました。早朝の活動としてこれまでに2回の朝礼、第1回目の防災（避難）訓練を実施しました。大部分の学生は非常に協力的で機敏に行動してくれますが、中には朝が弱くなかなか起きられない学生もいます。生活の慣れとともに緊張感も薄れてくる頃ですので、寮内で寝過ごすことのないよう声掛けや見回りをしようとして計画しています。できれば学生たちの自主的な行動に任せたい

のですが、寝坊して玄関の施錠がされないと安全上望ましくありませんので、我々が口や手を出すことをお許しください。

寮務関係教員については、昨年より人数が減りましたが、各棟の顧問や各部署の担当を決め、学生からの相談にのったり助言を行ったりできるようにしています。また寮生会の活動についても、寮を良い方向に持っていこうとするアイデアは積極的に採用しようと考えています。マテカ（自主的に勉強し、上級生が教える集まり）は寮食堂や合宿所で実施していますが、棟ごとにマテカ委員を置いて各棟で実施してはどうかというアイデアが出ています。寮生会から出てきたことに、彼らのやる気と頼もしさを感じています。彼らの活躍が、実のある形として結果につながってくれることを期待しています。

寮生は日々の生活の場である寮内で様々な出来事に直面し、その経験を通して多くのことを学び成長していくと思います。保護者の皆さまの変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



## 進歩し続ける専攻科を 目指して

校長補佐（専攻科長）  
稲津 晃 司

平素より専攻科の教育活動にご理解とご協力を頂き、まことにありがとうございます。

今年度より専攻科長を拝命しました。専攻科運営委員の村松久巳教授、鈴木静男准教授、小村元憲准教授、横山直幸准教授とともに5名で運営します。よろしく願います。

専攻科の入試では昨年度実施の平成30年度入試から、学力入試で物理と化学の出題範囲を変更しました。この入試では、定員24名に対して37名が受検し、34名が合格しました。入学者は30名で新入生の定員充足率は1.21です。この入試を経て入学した1年生を含め、今年度の専攻科は、1年生31名、2年生29名の計60名、コース別では、環境エネルギー工学コース22名、新機能材料工学コース13名、医療福祉機器開発工学コース25名が在籍しています。今年度も4月20日(金)に進学説明会を開催し、平成31年度入試を5月26日(土)に推薦入試、6月16日(土)に学力入試で実施します。

本校専攻科は、平成27年度から特例適用専攻科に認定されており、学位申請時に学修成果レポート提出と筆記試験受験が免除されます。平成29年度も修了生23名全員に特例適用されて学位が授与されました。特例適用専攻科では、博士号取得教員のうち、審査を経た認定教員が専攻科研究の指導に当たることとされ、本校では5月現在、29名が認定教員です。引き続き認定教員数の増加を

図っています。

また、専攻科課程では1年生後期の10月から約4か月間、学生は企業や大学等での学外実習に取り組んでいます。この学外実習では、製造や開発といった産業活動あるいは、実験や解析の研究活動の実務を通して、キャリア意識の向上、技術者としての素養の充実および学習内容の理解向上を図ります。昨年度の実習先の種別学生数は、企業12名、病院1名、研究機関2名、国内大学7名、海外大学（韓国クモ工科大学）2名でした。今年度からは地域創生テクノセンター内に設置された企業インキュベーター、未来創造ラボラトリーでの学内における実習も可能となり、経済的にも時間的にも負担が少ない実習が可能でです。

修了後の進路については、平成29年度23名の修了生のうち、就職が13名、大学院進学が10名で、いずれも各学生の希望進路でした。本年度2年生24名は5月時点で就職希望14名、大学院進学希望14名です。就職希望者では、すでに複数名が内々定を得ており、昨年度に比べ、やや早い進捗となっています。

本校専攻科は、成長分野での地域新産業に対応できる技術者教育としての3コース制、長期学外実習による実践経験、特例適用による確実な学位取得、JABEE（日本技術者教育認定機構）が保証する世界水準の教育、就職率・進学率とも100%の実績他、多くの特長があり、この専攻科を修了する学生は、沼津高専の技術者教育の完成形と言えます。変化し続ける産業社会で活躍できる技術者を輩出するよう専攻科は、進歩を続けます。今後とも専攻科へのご支援とご協力をよろしくお願い致します。





## 1年生のやる気に 刺激されて

機械工学科長  
三 谷 祐一朗

今年度より機械工学科の学科長を務めます、三谷と申します。学級担任は8年経験しましたが学科長は初めてですので、多少不安ですが身が引き締まる思いです。

さて、機械工学科には昨年度、育児をしながら熱心に研究活動をしている女性教員、喜多先生と、そしてグローバル化の波に乗って韓国より来られた金（キム）先生の2名が加わり、温かさや国際性を増して12名で運営しております。教育に対する考え方は少しずつ異なりますが、学生を十分に育て、立派な技術者になって社会へ旅立って欲しいという熱い想いは共通しており、より学生のためになる教育を目指して将来計画を練っています。

今年の4月21日に開催された1年生対象の合宿研修にて機械工学科1年生に、「なぜ高専に来たのか、高専で何

がしたいのか」と問いかけました。それまで私は、「何となく物を作るのが面白そうだから」とか、「ロボコン部に憧れて」というような、多少ぼんやりした抽象的な理由だろうと思っておりました。ところが彼らの答えは、私の想像をはるかに超える、極めて具体的なものでした。「三面図はいつ描けるのか」、「バイクのパーツを自分で加工して作っても良いのか」、「父親が設計関係の仕事をしており、早く設計ができるようになりたい」といった、高い学習意欲が感じられる発言が多数あり、とても感動しました。同時に、彼らの胸に秘める技術者への夢を裏切ってはいけないという、教員としての責任も強く感じました。

私は、平成25年度に1年間、主として生産現場の制御機器を製造する民間企業に出向し、社員と共に働いて、教員にとってのインターンシップとも言える貴重な体験をしました。そこで構築したつながりは現在も継続しており、生産現場における最先端の技術を教育に落とし込む手段や方法を共同で模索し続けております。それらを活かし、来年度のカリキュラムの見直しを検討中です。機械工学科の未来にご期待下さい。



## 今年度の 電気電子工学科紹介

電気電子工学科長  
西 村 賢 治

分不相応にも学科長を仰せつかりました、よろしくお願ひします。力不足ゆえ、不安に思われる局面が多々あるでしょうが、皆様には助言と協力をぜひお願ひします。さて本学科は11名の教員で運営していますが、少しでも具体的に捉えていただくために、各教員が得意な領域をあえて単語一つで表現してみます。佐藤教員は光エレクトロニクス、大津教員は静電気工学、高野教員は電動機制御、望月教員は電子回路、野毛教員は超音波エレクトロニクス、嶋教員は電波物理、大澤教員は固体物理学、高矢教員は色彩画像工学、小村教員はナノ材料工学、山之内教員はモーションコントロール、今年度は宇都宮大学にて研修中の眞鍋教員は計算科学、西村はプラズマ工学となります。学科名の印象とは異なり、多岐にわたることが伝わったでしょうか。うまく伝えられなかったとしても、興味のある単語は見つかったのではないのでしょうか。何を学びたくて本校に来たのか、その思いと一致する単語を頼りに、学生はその教員にぶつかってみてください。保護者の皆様はお子さんから聞いた言葉を頼りに、夢につながる教員のもとへ飛び込むように、背中を押してあげてください。これ以外にも、各教員は学生が育つ活動をしています。学力不振に陥らないようにEスタを本格的に開始しました。これは野毛教員と高矢教員

が立ち上げた勉強会ですが、嶋教員と山之内教員が加わり主軸となって、教員や学生相互による勉強会を行なっています。課外活動では大津教員のEne-1GP、小村教員が牽引してくれたE科プロジェクトがあります。日常に目を向ければ、5年生の進路指導として望月教員と大澤教員が、本学全体の学生指導としては高野学生主事が、定年退職され再雇用という形ですが、今も活躍する名誉教授佐藤教員と、さまざまな形で活動しています。いわゆるブラックになってもいけないので、あれもこれもとはいきませんが、全員で運営・活動していきます。どうぞよろしくお願ひします。





## 新年度にあたって

電子制御工学科長  
鄭 萬 溶

今年度は、新入生を40名迎え、本科生213名でスタートしました。担任は1年生から順に、鈴木正樹（教養科数学）、大橋（教養科哲学）、小谷、牛丸、大沼、そして就職指導担当は遠山です。また、1年生と2年生の副担任はそれぞれ鈴木静男と青木が務めます。大庭は、5月から約10か月間フランスのリヨンにある「フランス国立流体力学・音響研究所」にて流体計測技術や流れの可視化技術について研究を行うため、学科を一時的に離れております。

4月20日と21日の両日には、新入生オリエンテーションが御殿場の「国立中央青少年交流の家」で実施されました。初日は教務と学生生活に関する学年全体の研修とオリエンテーションがあり、二日目は各学科に分かれて学科別研修を行いました。学科別研修の冒頭に私の方から学科の教員紹介と、カリキュラムと単位、心構え、学習法などについて話をしました。皆真剣に聞いてくれたので、今後の成長を楽しみにしております。

今年度の学科運営の方針ですが、まず一つ目としては、なるべく早い段階から進路についてしっかり考えるように指導していきたいと考えています。高専は一般の高校と違って一般的な大学受験がありません。そのお蔭で余裕を持ってじっくり専門の勉強ができますが、将来進む方向性がほぼ決まっていることもあり、進路について悩む必要があまりありません。そのため、自分の将来についてほとんど何も考えずに4年生に進級し、4年生の終わり頃になってから考え始める傾向があります。夢や目標がしっかり定まっていないうち、中途半端な状態で5年生になって、焦って結論を出してしまうことがよくあります。準備不足が影響して5年生の途中で進路を変える学

生もいます。こうならないように、低学年のときから、自分の将来について真剣に考え、夢を実現するために普段から着実に努力していきけるように指導していきたいと考えております。そのためには、学生たちのことを一番分かち合われる保護者の皆様からの関心、助言と励ましが重要であると考えます。どうか学年と関係なく、普段から一緒に考えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

二つ目としては、目標を高く持てるように指導していきたいと考えております。目まぐるしく変化する時代の流れの中で、夢を描いたり目標を定めたりすることにはなかなか厳しいものがありますが、高専での5年間は、そのような時代の変化をしっかりと見据えて、自分の人生と向き合うことが何より大切なテーマであると考えます。挑戦する気持ちがあつてこそ、自分の中に潜んでいる能力を出現させることができます。そのような気持ちを常に持ち続け夢に向かって頑張れるよう、学科の教員一同一丸となって指導していきたいと考えています。

三つ目としては、国際化への意識を高めるために、昨年度同様海外からの留学生を積極的に受け入れ、また、海外への留学や国際会議も可能な限り多くの学生が経験できるように支援していきたいと考えています。タイのタマサート大学からの短期留学生の受け入れが既に決まっております。6月中旬から大沼研究室で研修を受けることになっております。今後、韓国のクモ工科大学からの留学生も受け入れる方向で計画を進めております。また、専攻科生の海外短期留学も実現させるために準備を進めています。

最後に、現在までの5年生の状況についてお知らせします。本年度の5年生は42名で、就職と進学がちょうど半々ずつになっています。進学希望者のうち、5名は専攻科を推薦で受験することになりました。就職希望者も現在順調に活動を行っております。これからも電子制御工学科教員一同教育の改善と充実を目指して頑張っておりますので、保護者の皆様の変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



## 学生の更なる学力向上を目指して

制御情報工学科長  
芹 澤 弘 秀

昨年度に続き、今年度も学科長を担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。制御情報工学科では、3月に36名（就職16名、進学20名）の卒業生を送り出し、4月には1年次新入生41名と3年次留学生1名、4年次編入生1名を迎えて新年度がスタートしました。新入生・留学生・編入生の皆さんには早く学校に慣

れ、夢の実現に向けて充実した高専生活を送ってほしいと願っています。2～5年生の皆さんも個々の目標を設定し、学力のみならず人間力も高めるべく日々精進することを期待しています。

本学科では現在、松本准教授が育休中ですが、昨年度10月に着任した金子助教を加えて実働教員11名の体制となっています。5年担任は経験豊富な藤尾教授（就職指導は長縄教授）、4年担任は担任経験のある山崎准教授、3年担任は昨年度に続いて横山准教授が担当しています。また、2・1年担任の教養科遠藤教授および鈴木久博教授をサポートすべく、金子助教と吉野教授にはそれぞれ2年と1年の副担任をお願いしています。勉強や進路、生活面のことなどで悩みがある場合は、担任・副担任・

学科長に気軽にご相談ください。また、今年度の就職・進学状況ですが、例年と同様、就職よりも進学希望者の方が多くなっており、就職については昨年同様、順調な滑り出しとなりました。

さて、今年度の学科方針の中で「学生の更なる学力向上」を目標の一つとしました。点数ばかりに目を向けがちな学生に対して勉強の本質的な面白さを気付かせ、学生が実力を付けて高学年の授業に対応できるようにするための教育方法を模索・実践し、学科内で情報を共有するというものです。特に専門科目の多くが前年度までの

学習内容の理解を前提としており、低学年での地道な学習とそれに基づく知識の定着が重要となります。さらに数物系科目では、その本質の理解には暗記系科目とは異なった“手を動かす（思考する）”勉強方法が重要です。本質が理解できれば授業が面白くなり、充実した学校生活につながると考えています。

最後に、本学科教員一同、全力で学生指導にあたっていきますので、今年度も保護者の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。



## 本年度の物質工学科

物質工学科長  
大川 政 志

昨年度に引き続き本年度も学科長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

本年度は2名の新しい教員がわれわれの仲間に加わっていただきました。新たな学生として男子28名、女子14名の新生、マレーシアから男子留学生の1名、男子編入生1名を4月3日に挙行された入学式で迎え、本年度の物質工学科がスタートしております。本年度の物質工学科の現員は1年生42名、2年生41名、3年生45名、4年生40名、5年生46名、総勢214名となり、昨年と比べると若干減少しています。

教職員の動向をお伝えします。人事交流のため4月から竹口昌之教授が和歌山高専に異動し1年間不在となります。3月に退職された大島一真助教の後任として伊藤拓也助教が成蹊大学から来られました。化学工学系の座学や実験を担当していただきます。また、宇部高専より三留規准教授が人事交流制度を利用され着任されました。生命科学が専門となります。新たなお二人の力を得て本年度は11名の教員で学科運営を行うことになります。

物質工学科の実験実習には、昨年に引き続き再雇用の鈴木猛技術職員に協力をいただいております。さらに5月からは佐々木敬子技術職員にも協力していただいております。

教育内容につきまして、一昨年度より学生実験体制を変更した新カリキュラムが始動し3年目となりました。新カリキュラムでは3年生の実験が半期ごとになり現在は物理化学実験が行われ後期には有機化学実験が行われる予定です。

学生の進路に関しまして、昨年と同様に企業からの求人数が多い状況であり、就職希望学生は就職担当教員のもと希望する企業の採用試験に挑んでおります。一方、進学希望者は、学科教員の協力を得ながら5年生担任の古川准教授の指導のもと専攻科入試、大学編入に向けて準備を行っております。

昨年度の学生の学習状況から基礎学力を身につける大切さを改めて感じております。目の前の定期テストだけを見ていると基礎学力が定着せず応用が利かない、十分な解答ができないなど将来に不安を感じることがあります。専門科目を極める力は基礎学力があってこそなので「急がば回れ」となりますが、本年度は基礎学力を定着できるような指導を目指していきたいと思っております。

本年度も物質工学科へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



## スタートに際して

教養科長  
佐 藤 誠

新年度がスタートしました。今年度も教養科長を務めることとなりました。どうぞよろしくお願いたします。教養科教員の主な任務として、本校1、2年生の学生指導（クラス運営）があげられます。今年度は、1年部、2年部ともにクラス担任を兼務する学年代表（1年部は鈴木久博先生、2年部は遠藤良樹先生）と4名のクラス

担任および専門学科から配置された5名の副担任でクラス運営を行っていきます。今年度から本格的にモデルコアカリキュラムに基づいた授業が展開されます。専門学科との連携を密に取りながらクラス運営をしていきたいと考えております。

教養科では、本年度6名の新しい先生をお迎えしました。寮監を担当する合田俊弘先生、英語を担当する小田昇平先生、物理を担当する設楽恭平先生、数学を担当する端川朝典先生と人事交流で久留米高専から来られた国語担当の小林美恵子先生、再雇用嘱託教授として福島高専から来られた英語担当の西口美津子先生です。合田先生は高等学校の校長先生を務められた経験を持ち、寮生たちの良き父親役として寮生指導に当たっていただける

ことと思います。また、西口先生と小林先生は他高専での豊富な経験をお持ちになっており、本校の教育に他高専の新しい風を吹き込んでいただけるものと思います。小田先生は昨年度まで所属していた高知高専の経験を本校での教育に生かしていただけるものと思っています。設楽先生と端川先生は年齢的に若く、フレッシュな息吹を吹き込んでくれるものと期待しております。このよう

な幅広くバラエティに富んだ先生方をお迎えし、総勢26名の体制で学生の教育に努めてまいります。

教養科では、保護者の皆様とのコミュニケーションも重要であると考えております。些細なことでも担任に相談していただければと思います。今年一年間、保護者の皆様のご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 平成30年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成30年3月31日	大久保 清美	定年退職（嘱託教授に再雇用）	教授（教養科）
	佐藤 憲史	定年退職（嘱託教授に再雇用）	教授（電気電子工学科）
	長澤 正氏	定年退職	教授（電子制御工学科）
	村松 直子	辞職	准教授（教養科）
	藤井 数馬	辞職	准教授（教養科）
	大島 一真	辞職	助教（物質工学科）
	宮内 太積	再雇用期間満了退職	嘱託教授
	笹原 正和	再雇用期間満了退職	嘱託講師
	露木 弘充	定年退職	総務課長
平成30年4月1日	竹口 昌之	和歌山工業高等専門学校に配置換	教授（物質工学科）
	小林 美恵子	教授（教養科）に配置換	久留米工業高等専門学校教授（一般科目）
	三留 規誉	准教授（物質工学科）に配置換	宇部工業高等専門学校准教授（物質工学科）
	合田 俊弘	講師（教養科）に採用	
	小田 昇平	助教（教養科）に採用	
	設楽 恭平	助教（教養科）に採用	
	端川 朝典	助教（教養科）に採用	
	伊藤 拓哉	助教（物質工学科）に採用	
	西口 美津子	嘱託教授に再雇用	福島工業高等専門学校教授（ビジネスコミュニケーション学科）
	八木 正行	総務課長に配置換	学生課長
	小澤 強	学生課長に昇任	高専機構本部管理課課長補佐
平成30年5月31日	大林 千尋	辞職	助教（電子制御工学科）

平成30年度 校務分掌

区 分	氏 名	職 名
校長	藤本 晶	校長
副校長(教務主事)	小林 隆志	教授
教務副主事	-	-
教務主事補	大津 孝佳	教授
教務主事補	澤井 洋	准教授
教務主事補	新富 雅仁	准教授
教務主事補	嶋 直樹	准教授
教務主事補	鈴木 康人	准教授
教務主事補	藁科 知之	准教授
教務主事補	大沼 巧	准教授
校長補佐(学生主事)	高野 明夫	教授
学生副主事	-	-
学生主事補	青山 陽子	教授
学生主事補	松澤 寛	准教授
学生主事補	鈴木 尚人	准教授
学生主事補	青木 悠祐	講師
校長補佐(寮務主事)	川上 誠	教授
寮務副主事	-	-
寮務主事補	望月 孔二	教授
寮務主事補	大久保進也	准教授
寮務主事補	黒澤 恵光	講師
寮務主事補	新井 貴司	助教
校長補佐(専攻科長)	稲津 晃司	教授
環境エネルギー工学コース長	稲津 晃司	教授
新機能材料工学コース長	小村 元憲	准教授
医療福祉機器開発工学コース長	横山 直幸	准教授
教養科長	佐藤 誠	教授
機械工学科長	三谷祐一朗	教授
電気電子工学科長	西村 賢治	教授
電子制御工学科長	鄭 萬溶	教授
制御情報工学科長	芹澤 弘秀	教授
物質工学科長	大川 政志	教授
図書館長	鈴木 久博	教授
総合情報センター長	宮下 真信	教授
総合情報副センター長	鈴木 康人	准教授
情報システム管理部門長	青田 広史	技術専門員
情報教育部門長	鈴木 康人	准教授
情報化推進部門長	宮下 真信	教授
地域創生テクノセンター長	遠山 和之	教授
地域創生テクノ副センター長	鈴木 尚人	准教授
地域創生テクノ副センター長	山崎 悟史	准教授
地域連携部門長	山崎 悟史	准教授
研究支援部門長	鈴木 尚人	准教授
知的財産部門長	遠山 和之	教授
教育研究支援センター長	芳野 恭士	教授
教育研究支援副センター長	永禮 哲生	准教授
教育研究支援副センター長	横山 直幸	准教授
学習サポートセンター長	住吉 光介	教授
学習サポート副センター長	松澤 寛	准教授
キャリア支援センター長	高野 明夫	教授
キャリア教育委員会委員長	長縄 一智	教授
COOP教育委員会委員長	望月 孔二	教授
就職支援委員会委員長	長縄 一智	教授
広報センター長	芳野 恭士	教授
出版委員会委員長	野毛 悟	教授
広報委員会委員長	芳野 恭士	教授
授業改善支援センター長	藤尾三紀夫	教授
E-learning推進委員会委員長	嶋 直樹	准教授
Active learning推進委員会委員長	成田 智子	准教授

区 分	氏 名	職 名
国際交流センター長	小林 美学	教授
留学生支援委員会委員長	川上 誠	教授
海外交流委員会委員長	鈴木 久博	教授
環境安全センター長	後藤 孝信	教授
環境保全委員会委員長	高野 明夫	教授
毒劇物管理委員会委員長	大川 政志	教授
組換えDNA実験安全委員会委員長	古川 一実	准教授
動物実験委員会委員長	芳野 恭士	教授
安全衛生委員会委員長	小林 隆志	教授
技術室長	芳野 恭士	教授
学生生活支援室長	小林 美学	教授
特別課程運営室長	村松 久巳	教授
特別課程運営副室長	鈴木 尚人	准教授

学科・学級	担任氏名	職 名	副担任氏名	職 名	
機械工学科 (M科)	1年	芳賀多美子	准教授	喜多 和	講師
	2年	小村 宏史	准教授	金 顯凡	准教授
	3年	山中 仁	准教授	-	-
	4年	永禮 哲生	准教授	-	-
	5年	西田 友久	教授	-	-
電気電子工学科 (E科)	1年	駒 佳明	准教授	野毛 悟	教授
	2年	渡邊志保美	准教授	望月 孔二	教授
	3年	山之内 亘	助教	-	-
	4年	小村 元憲	准教授	-	-
	5年	大澤 友克	准教授	-	-
電子制御工学科 (D科)	1年	鈴木 正樹	准教授	鈴木 静男	准教授
	2年	大橋 正則	准教授	青木 悠祐	講師
	3年	小谷 進	准教授	-	-
	4年	◎牛丸 真司	教授	-	-
	5年	大沼 巧	准教授	-	-
制御情報工学科 (S科)	1年	◎鈴木 久博	教授	吉野龍太郎	教授
	2年	◎遠藤 良樹	教授	金子 裕哉	助教
	3年	横山 直幸	准教授	-	-
	4年	山崎 悟史	准教授	-	-
	5年	◎藤尾三紀夫	教授	-	-
物質工学科 (C科)	1年	佐藤 崇徳	准教授	藁科 知之	准教授
	2年	成田 智子	准教授	新井 貴司	助教
	3年	◎後藤 孝信	教授	-	-
	4年	山根 説子	准教授	-	-
	5年	古川 一実	准教授	-	-

※◎は学年代表

教 科 主 任	氏 名	職 名	備 考
国語	小村 宏史	准教授	
社会	佐藤 崇徳	准教授	
数学	遠藤 良樹	教授	
物理	住吉 光介	教授	
化学	小林 美学	教授	
体育	渡邊志保美	准教授	
英語	村上 真理	准教授	
ドイツ語	大久保清美	嘱託教授	

委員会名	役職名	氏 名	職 名	備 考
企画運営委員会	校長	藤本 晶	校長	
	教務主事	小林 隆志	教授	
	学生主事	高野 明夫	教授	
	寮務主事	川上 誠	教授	
	専攻科長	稲津 晃司	教授	
	事務部長	杉浦 利勝	事務部長	
	委員	長谷 賢治	教授	
	〃	鈴木 久博	教授	
〃	小林 美学	教授		

## 平成30年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	顧 問 教 員 名 (☆は連絡責任者)				
陸上競技部	☆渡邊 志保美	鈴木 静男	金 顯凡		
ソフトテニス部	☆平田 陽一郎	佐藤 崇徳	伊藤 拓哉		
バレーボール部	☆金子 裕哉	小林 美学	小田 昇平		
バスケットボール部	☆遠山 和之	青山 陽子	鈴木 久博		
野 球 部	☆横山 直幸	前田 篤志	大橋 正則	端川 朝典	設樂 恭平
卓 球 部	☆芳賀 多美子	黒澤 恵光	稲津 晃司		
柔 道 部	☆松澤 寛	西垣 誠一			
剣 道 部	☆新井 貴司	澤井 洋			
サッカー部	☆望月 孔二	長縄 一智	駒 佳明	山之内 亘	
ラグビー部	☆井上 聡	鄭 萬溶			
体 操 部	☆佐藤 誠	後藤 孝信			
水 泳 部	☆新富 雅仁	大澤 友克	遠藤 良樹		
合気道部	☆長谷 賢治	宮下 真信			
テニス部	☆小村 元憲	西田 友久	永禮 哲生	三留 規誉	
スキー部	☆嶋 直樹	小谷 進			
ハンドボール部	☆野毛 悟	高矢 昌紀			
弓 道 部	☆小村 宏史	小林 美恵子			
空手道部	☆芹澤 弘秀	大久保 進也			
バドミントン部	☆牛丸 真司	藤尾 三紀夫	古川 一実		
トライアスロン部	☆三谷 祐一朗	鈴木 尚人			
吹奏楽部	☆藁科 知之	山根 説子	松澤 寛	山中 仁	
囲碁将棋部	☆山崎 悟史	西垣 誠一			
ロボコン部	☆青木 悠祐	山中 仁			
天文部	☆大川 政志	住吉 光介			
同好会(理工系)	☆村松久巳(機)	☆鈴木康人(プ)	☆鈴木正樹(数)	☆大津孝佳(知)	
同好会(芸術系)	☆芳野恭士(合)	☆吉野龍太郎(軽)	☆西村賢治(大)	☆成田智子(茶)	
	☆村上真理(E)	☆大沼 巧(ア)			

同好会(理工系): 機械工学・プロコン・数理・知財

同好会(芸術系): 合唱・軽音楽・大道芸・茶道・ESS・アカペラ

平成30年6月1日現在

## 着任挨拶



### 人生を変えた沼津高専との出会い

物質工学科  
三留規誉

山口県の宇部高専から参りました三留規誉と申します。このたび、人事交流制度で沼津高専に来る機会をいただき、4月より3年間、沼津高専の教育・研究に携わらせていただくこととなりました。よろしくお願ひいたします。宇部高専の教員として7年半の間で、3-5年の学級担任、就職担当、国際交流室長の経験があり、これらの経験を活かして沼津高専の発展に貢献できるように努めてまいります。

私が高専教員になるきっかけは、沼津高専の卒業生と

の出会いでした。私が東京工業大学で博士課程の学生で生物化学の研究をしていた時、研究室にものごく優秀な学生が卒研生として入ってきました。その学生は沼津高専の卒業生で、その時はじめて高専というのを知り、こんな優秀な学生を育てる高専に魅力を感じました。

「才能を開花させる」ための一番の方法は、この人はすごいと思う人に出会うことだと思います。なぜなら、その出会いによって、自分もこんな風になりたいと、自分が憧れるものを認識し、目標が定まり、自分のなりたいものに向けて努力するようになるからです。その出会いは先生や先輩、そして同級生、時には後輩かもしれません。高専という5年間で専門科目を学ぶ環境には、きっとそのような出会いがあると思います。

私たち教員は、社会に出て活躍する学生を育てたいと思っています。沼津高専での教育を通して、君たちの人生がより豊かになるような働きかけをしていきたいです。



### 資源環境問題へ立ち向かうための研究と教育

物質工学科  
伊藤拓哉

本年4月より物質工学科に着任致しました伊藤拓哉と申します。生まれも育ちも千葉県で、沼津には旅行でしか来た事はありませんでした。その時は沼津は食べ物も美味しく、自然も豊かで「また来たいね」などと妻と話しておりましたが、まさか勤めることになるとは思ひも寄りませんでした。

私は日本大学で学位を取得し、1年間日本大学にてポスドクをした後、成蹊大学で5年間助教を務め、沼津高専へ着任いたしました。

私の研究テーマは主にバイオマスのエネルギー転換です。バイオマスとは生物由来の有機性資源で木や草、家

畜糞尿、食品廃棄物等があります。これらは化石資源と異なり、再生可能で地球温暖化に寄与しない特徴を有しますが、各地に分散して存在するため、収集コストが問題となります。そこで、バイオマスを発生場所から移動する事無く、その場で必要なエネルギーへ転換する、僻地や小・中規模でも実施可能な工業化研究をモットーとしています。

資源環境問題へ立ち向かうためには循環型社会の構築が必須ですが、地球全体規模での循環型社会の構築は困難です。しかし、このように各地域毎にその地域に適した小規模な循環型社会を構築すれば、それは地球全体規模での循環型社会の構築と同義であると考えています。また、このような循環型社会の構築には教育による一人一人の意識改革が重要であると考えており、将来を担う技術者となる沼津高専の学生に教育者として関わることが出来るのは非常に有意義なこととうれしく思っております。



### 憧れの沼津高専へ

教養科  
小林美恵子

この度、福岡県の久留米高専から人事交流で着任いたしました。明るく温かな教職員の皆様と礼儀正しく落ち着いた印象の学生諸君に迎えていただき、無事に新生活をスタートさせることができました。

生まれと育ちは東京ですが、現在は神奈川県藤沢市在住、東海道線で通勤しています。小田原・湯河原・熱海・三島・沼津…、誰もが愛してやまない観光の名所をなぞりながら行き来するのはなんと幸せなことでしょう。

しかしながら、今回の異動はむろん観光目的なぞではなく、高齢の家族を抱えた身として、高専の支援策を活用させていただいたものです。「働き方改革」が叫ばれてもなかなか実現は難しい中、関係の皆様のご助力を得て、希望を叶えていただきました。感謝を忘れず、精一杯の働きでご恩に報えるよう努めてまいります。人生100年時代が到来しているそうですが、若い世代の皆さんにも、

将来のモデルを示せるような、介護者としての働き方を模索していきたいと思っています。

久留米・沼津と二つの高専を経験させていただいて、一番印象深く感じるの、それぞれの御当地色の強さでしょうか。久留米餅とブリジストン、筑後川の地・久留

米高専も強烈な魅力を放つところですが、温暖な気候と美しい風景、富士の高嶺に臨む沼津高専は、全国高専の憧れの地といえるでしょう。雄大な景色をそのまま映すおおらかな校風を私も身に着けられれば幸甚に存じます。どうぞよろしく願いいたします。



## 魅力ある技術者に

教養科・寮監  
合 田 俊 弘

寮監を務めながら学生たちを見ていて、すぐに頭に浮かんだのは「自治」という言葉です。本校の学生たちは、最近では珍しいほど自分たちの力でいろいろなことをこなしています。それは、毎日の点呼に留まらず、後輩の指導から私物の持込許可、あるいはマテカと呼ばれる学習会等数えればきりがありません。

考えてみれば、寮の学生は社会に出るまでの間この環境で生活するわけですから、ここで様々なことを学ばなければなりません。言い換えれば、学生寮は社会に出る

準備の場でもなければならぬのです。そう考えた時、寮監としての私の役割は、ただ単に書類の提出の方法や戸締まり、目上の人と話す時のマナー等を教えるだけでなく、もっと幅広く多くのことを伝えるべきなのだと気付きました。例えば、季節の移り変わりを感じる心、花を見て美しいと思う気持ち、人の苦しみや痛みが分かり、そこに手を差し伸べ共に解決しようとする優しさや勇氣等々。

こうしたことをすべて身につけ、豊かな人間性を備えた、コミュニケーションが充分にとれる技術者になって欲しいと願っていますし、そのための援助をするのが私の役割でもあると考えています。

素晴らしい技術と豊富な知識を持った沼津高専の学生であるからこそ、人の気持ちや心を大切にすることができる魅力ある人になって欲しいと願っています。



## Choose life. Choose your future.

教養科  
小 田 昇 平

「先生、英語教えてください」よろこんで。じゃあこの本を読んでみ「ちがくて、もっとすぐに英語が話せるようになるやつです」あー、ごめん。先生、期待に添えないわ。残念ですが、ある日突然外国語ができるようになることはありません。そもそもすぐに覚えたものはすぐに忘れるし。経験あるでしょ、一夜漬け。

でももし、ゆっくり勉強しようというのなら、お手伝いできます。外国語は習得に時間がかかります。運動とか楽器とか、そういうのにむしろ近いのです。すぐに成果や答えが求められる現代にはそぐわないかもしれませ

ん。けれど必ず成果が出ます。外国語を学ぶことは、その言語のみならずその思考様式や文化に触れること。これはみなさんの未来をことごとく、貴重な瑞々しい果実です。外国語で話して伝わったこと、ありませんか。お礼を言われたこと、ありませんか。そのときのうれしさが、この果実の種です。こんな些細なことでもいいんだし、この際開き直ってやるだけやってみるのはいかがでしょうか。美味しい果実を手にするため、ちょっと勇氣を出してみるか、すっぱい「禁断の果実」として避けて通るか。I'm gonna make him an offer he can't refuse.なんて言いません、すべてはみなさんの選択です。

自己紹介が遅れました。この春着任いたしました教養科の小田と申します。本学では英語を担当しておりますが、専攻はフランスを主とした美学藝術学です。みなさんと一緒に精進できる、こんなにうれしいことはありません。今後ともよろしく願い申し上げます。



## 「身近な」物理

教養科  
設 楽 恭 平

本年度より、教養科物理の助教として着任いたしました設楽恭平と申します。どうぞよろしく願いいたしま

す。出身は山形県で、地元の高専卒業後は名古屋大学で4年間過ごしました。その後京都大学大学院で博士課程を修了した後、福岡の九州大学、東京のお茶の水女子大学で研究員を務めるなど、全国各地を転々として参りました。

私が担当する「物理」ですが、多くの方は「宇宙」や「素粒子」といった究極の世界を想像するかもしれませんが、私の研究分野は「非線形物理学」という名前こそ小難しそうなものですが、扱う対象は通常の生活

で目にするような身近な現象が多いです。例えば水族館でイワシの水槽をご覧になったことがある方はわかると思いますが、大量のイワシが一斉に同じ方向に進んだり、渦を巻いたりする様子を時々観察することができます。人間ほどの知能を持たない魚類がいかにしてあのような大集団を作り上げるのか？こんな疑問がれっきとした物理の研究対象になってしまうのです。その他にも、動物の体の表面に現れる模様はどのようにしてできるのか？

雪の結晶はなぜあのような形なのか？といったことも対象になります。

物理は様々な工学分野を支える基礎となっており、高専の学生の皆さんにとっては必修科目の一つです。ある意味では専門を究めるための通過点と言えるかもしれませんが、私としては自身の研究で培った視点を提供することで、身の回りの現象を捉え直し、新たな発見を促す手助けになればと考えています。



## まずは自己紹介

教養科

端川 朝典

本年度から教養科に数学の助教として着任致しました端川朝典と申します。岩手出身で地元の高校を卒業しました。高校時代、数学は苦手な教科でしたが一番好きな教科でもあったので、将来は高校数学教師になりたいと考え、山形大学 理学部 数理科学科に入学しました。しかし1年時には、より数学の面白さに魅了されてしまい、高校教師の夢そっちのけで大学院進学を希望するようになってしまいました。大学卒業後、東北大学 大学院情報科学研究科に進学、現在の研究分野の一つである頂点作用素代数の研究を始めました。大学院では数学の楽しさ

だけでなく、研究の厳しさや新しいことを生み出すことの難しさなど多く学べたと思っております。指導教官や様々な人の支えで学位を修得でき、研究員の期間を経て現在に至ります。また、私は一関工業高等専門学校で非常勤講師もしておりました。一関高専時代もそうでしたが沼津高専でも「どのようにすれば少しでも数学を楽しんでもらえるだろうか」と数学が苦手だった高校時代を振り返りながら授業準備をする試行錯誤の毎日です。学生には「少しでも理解できた」、「計算が進んだ」等のほんのちょっとした「やった！」を大事にしてもらいたいと考えております。この積み重ねが、難しいと思ひ込みあまり楽しめていない数学を楽しめるものにしてくれると信じております。

未熟者ゆえ至らぬ点多々あると思いますが、皆様のお力を借りて頑張っていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



## 英語との関わりを通して

教養科

西口 美津子

今年3月に福島高専ビジネスコミュニケーション学科を定年退職し、4月から実家のある小田原に近い沼津高専教養科で英語の嘱託教授をしております。私と英語との関わりは、中学時代に所属した軟式テニス部の顧問の先生が英語を担当されていたことに始まります。高校に入ってから、毎朝、通学途中にあった母の友人の家に通って、20分位、英語の読み物を音読するのが日課になりました。60歳を超えても若く美しかった先生の「美津子さん、人間は一生勉強ですよ」という口癖が今も耳に残っています。

津田塾大卒業後入った会社では、輸出用の開発部門に所属する新人は全員、研修発表を英語で行うことになりました。桜の咲くのも忘れるほどハードな春だったのを覚えています。その後、家人の留学に伴う1年間の米国滞在や、米国系シンクタンク勤務を経て入学した慶應大大学院では、交換留学生としてカナダのウェスタン大学

で4か月間学ぶことができました。さらに、カナダ系企業に再就職後は、英語を使う機会も格段に増え、会社の許しを得て英国ロンドン大学SOASで中国ビジネスを学んだのもその頃です。

1ドルが360円だった十代の頃、自分が英語を勉強しても海外に行く機会があるのかしら…と半信半疑でした。グローバル化の進んだ今、英語を使った仕事をするのが当たり前になりつつあります。今まで培った経験を活かし、学生たちには、使える英語が身に付くように全力を尽くす所存です。どうか、よろしくお願いたします。





## 違う視点から見てみると

学生課長  
小澤 強

4月から学生課で勤務をしております小澤 強と申します。生まれも育ちも山梨県です。山梨県民は道案内をするときに「その角を東に曲がって」とか「〇〇ビルの西隣」と左右ではなく、方角で話をします。それは、甲府盆地から見ると富士山は南の方角にあり、絶対に変わらないものだと思っていたからです。

それが沼津高専に着任し、富士山が北側に見える。今まで見ていなかった方角から眺めるという不思議な感覚を持ちながら新鮮な気持ちです。

同じものでも見え方は人によって異なる場合があります。また、同じ人でも見る角度によって、見え方が全く違うことがあります。私たちの日常もそうではないでしょうか。我々、事務職員には同じことを繰り返す業務もあります。「毎年のことだから」、「毎月、繰り返しているだけだから」と同じ方向から見ているだけで、改善することへの意識が低くなっていないでしょうか。「今まで同じ方法でやってきて間違いが無かったから」、「前任者から言われたから」とその行為に慣れてしまっていて、「自分だったら、こう考える」、「違う視点から物事を見る（業務を見直す）」ことも必要だと思います。

今までやってきた方法を大きく変えることは難しいかもしれませんが、働き方改革は組織として取り組んでいかなければならない課題ですが、そのためには個々人も、今までとは違う視点で見て、意識を変えていく勇気も必要なのではないのでしょうか。

## 新入生から（入学にあたり）

### 未来の自分は

機械工学科1年 細谷 優華

入学前、私にとって高専は輝いた夢のような場所でした。現在、苦楽両方がバランスよくあり、とても充実した生活を送れています。

ここで過ごせる限られた時間を、より有意義なものにするために、私は多くのことに挑戦していきます。

まずは、身の周りのことです。時間があるときは勉強、読書、ニュースを見る等をして、身になる知識を蓄えます。そして、将来より高いレベルに自分がいられるようにしたいです。また、人との会話を大切に、コミュニケーション能力を高めていきます。よって、意見交換を

する場で自分の考えを積極的に発言し、他人の意見を聞く力を付けたいです。

これらの個人としてのことが、ある程度良い位置で安定したら次のことに挑戦します。それは、人の前に立ち何かをまとめる人になることです。ここでは、リーダー以外の人の立場を考え行動したいです。同時に、一人ひとりの特性を見分け、その人にとって一番良いことができるようにしたいです。最終的には、チームの一員として何をすべきかを考え行動する力を付けたいです。

5年間もあれば失敗は必ずどこかにはあるはずです。その一つひとつを乗り越え、自分を強くしていきたいです。

卒業後は、社会から求められ、周りから信頼される人になりたいです。また、充実した生活だったと胸を張れるようにしたいです。そして、入学前とは違う意味で、輝いた夢のような場所と、思えるようにしたいです。

### 新入生として

制御情報工学科1年 久保 颯涼

僕は今年度ここ沼津高専に入学しました。僕には新たな場所での生活を送るにあたり不安だった事があります。寮生活と学校生活です。沼津高専は寮制でありまた、上級生も同じ寮にいたので同級生、上級生とうまくやっていたのだろうかという事が寮生活の不安でした。また、沼津高専には色々な地域から人が来るので話の合う人や気の合う人がいるのかなという事と、自分は勉強についていけるのかどうかという事が学校生活に対する不安でした。

しかしどちらの不安も今ではほとんど解消されています。寮生活ではどの上級生もとてもいい人で、同級生はみんなとても面白く良い人達で本当に良かったと思いました。学校生活では最初はみんな話さなかったものの話しかけてみると話の合う人や気の合う人が多く、みんなとても面白い人達で良かったです。また勉強面では周りみんな頭のいい人ばかりなので、課題や講義の内容でわからないところがあると細かく丁寧に教えてくれるのでとても助かっています。

このように充実した生活の中で僕は今年度行いたい事があります。まず、私生活と勉強の両立です。部活、寮での規律ある生活、それらをしっかりとこなした上で自主的に学習を行えるようにしていきたいです。次に、専門的な技術を少しずつですが身につけていきたいと思っ

ています。もともとそれが目的で沼津高専を選んだのでしっかりと学習して、将来人柄の良い優秀な技術者とな

り世の期待に応えられるよう、努力していきたいです。

## 私の志すこと

物質工学科1年 中村理来

私の抱負は、自分のやりたいことを見つけることです。私が高専に入学を決意したのは、専門的な勉強ができ、寮生活を体験してみたかったからです。物質工学科という学科を志願したこともしっかりと理由はありました。しかし、具体的に自分は将来何をやりたいのか、自分のできることは何か、それがはっきりと決まっていません。固い意志がなければ、他人に流されてしまったり、勉強をどうしてするのかという目的がなくなってしまったり

します。自分のやりたいことを探しながら、普段の勉強も自主的に取り組んでいきたいと思っています。

また、学校生活や寮生活を通して、人柄の良い人間になりたいと思っています。技術者は他人の気持ちを考えて行動できる人間でなければなりません。現代の技術者は協力していろいろな開発や製品をつくり出しています。しかし、私は自己主張が強くなってしまふときがあります。高専生活を通して、他人の気持ちを考えて行動できる人になれるよう頑張りたいと思っています。

この5年間を通して自分のやりたいことを見つけ、教育理念である「人柄のよい優秀な技術者」になれるように、日々頑張っていきたいです。

## 留学生から

### もう一步の成長

電気電子工学科3年  
ジラウィト ジラチウィ

皆さん、こんにちは。タイから来ましたジラウィト ジラチウィと申します。ニックネームはハムです。タイ人は、本名が長いので日本でもタイでも友達や両親や親戚にハムと呼ばれています。これからハムと呼んでください。このような本名と全く関係ない言葉が不思議だとと思われるかもしれませんが、タイ人は皆ニックネームがついています。私は生まれたころに、両親にニックネームをつけてもらいました。

高専に編入して新たな冒険が始まり、様々なことがあり、自分の全く知らないことを学んだり、新しい経験をしたり、目的のなかった自分は目的というものを目指し

たり、将来の自分を想像し始めたりしてとても充実した毎日です。高専に入った最初の私は分からないことがたくさんあり、友達に教えてもらったり助けてもらったりして本当に助かります。先生方にも色々お世話になって、生活に関する面倒をみて下さって本当にありがとうございます。私は日本へ来てから1年間しか経っていないので日本の知らないことがたくさんありますが、これから日本のことや日本文化を熱心にたくさん学びたいと思っています。

沼津高専に来て良かったです。色々な仲間達や先生方と出会ったり経験のないことをしてみたり勉強にも力を入れたり活動もしたりしています。これからも頑張っ仲間達と一緒に成長していきたいと思って、これからの3年間を人生の一生忘れられなく素晴らしい宝物の3年間にしていきたいと思っていますので改めてよろしくお願ひします！

### XIN CHAO!!! (はじめまして!!!)

制御情報工学科3年  
ディエップ ミン タン

皆さん、はじめまして、ベトナムから参りましたディエップ ミン タンと申します。いつもタンと呼ばれています。私は1年半ぐらい前に来日して、東京日本語学校に行っていました。そして今年の3月に卒業して沼津高専に進学することになりました。今は制御情報工学科の3年生です。どうぞ宜しくお願いします。

さて、はじめに、少し私の国のことについて紹介したいと思います。ベトナムは東南アジアの国で、日本から飛行機で5時間ぐらいかかります。気候は北と南それぞれ違います。北の方は春、夏、秋、冬の4つの季節があるのに対して、南の方は雨季と乾季の2つの季節しかありません。ベトナムは発展途上国です。政府は国を発展させる為、経済の面と教育の面で色々な政策をとっています。最近、特に教育の面を中心とされています。しかも、国内での勉強だけではなく、海外留学することも奨励されています。ですので、私のように海外留学する人は増えてきています。景色も多様です。世界自然遺産もいくつかあります。旅行に行くなら、ベトナムをお勧めします。

日本に来て1年半日本での生活を送り、いろいろな体験と経験ができました。今度、沼津高専に進学するのも同じように、また沢山の事が勉強になりました。まず、沼津高専は静岡県沼津市に位置し、静かな所です。東京の雰囲気とは随分違います。学校のみなさんは誰でも優しく、もし何か困ることがあったら、彼らは非常に熱心に手伝ってくれます。学生達は仲がいいと思いました。先生達は本当に親切で、学生に対して一番良い授業が出来るように心を込めて教えてくれます。また、勉強の他にクラブの活動も楽しいです。私は運動が大好きで

勉強しながらいろいろなスポーツもやっていきたいですが、時間の問題の為なかなかクラブに参加することが出来ません。しかし、もし余裕があったら是非、何かのスポーツクラブに入りたいと考えています。

こんな素晴らしい教育環境に恵まれ勉強して暮らしていくのは私にとって本当にいいチャンスです。これからも学校での知識を学びながら社会から知識を得て、経験を重ねて、視野を広げたいです。なぜかという、将来、自分の知識を使って、役割のある人みたいに社会に貢献したいです。宜しくお願いします。

## こんにちは

物質工学科3年

ブリンヒル ミカエ アナ シティン

皆さん、初めまして。ブリンヒル ミカエ アナ シティンです。マレーシアから来ました。ブリンヒルと呼んで下さい。私は日本に来たばかりなので、分からないことがたくさんあります。

マレーシアはどんな国だと思いますか。日本のテレビではシンガポールが何度も出てくるので、知らない人はいないと思うのですが、マレーシアと聞くとパッ！としない人も多いかもしれません。だから、自分のことを話しながらマレーシアについても紹介します。

マレーシアはシンガポールの北の方であって、マレー半島とボルネオ島マレーシアに分かれています。マレー

半島には11の州があって、ボルネオ島にはサラワク州とサバ州の二つがあります。私の故郷はサラワク州のシブという町で、その町には中華系、イバン系とサラワクのマレー系の人たちが住んでいます。だから、マレーシアは多民族の国と言います。私はイバン系の民族です。インドネシアや周りの国も多民族の国ですが、マレーシアは一つ一つの民族の文化や言葉などを守っているの、他の国と比べるとマレーシアは特別な国だと思います。

マレーシアでは、三つの言語で話せる人は普通にあります。マレー語と英語はもちろんのことで、ある学校では中国語やインド語も教えています。私は、英語、マレー語とイバン語で話せます。簡単な中国語も分かります。

マレーシアについて色々と言いましたが、今は日本の文化や社会に慣れたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

## 寮生会活動について

### 寮生会役員として活動することの意味

機械工学科4年 寮長 秋山 亜久里

沼津高専学生寮寮生会寮長の秋山亜久里です。今年度の学生寮は、全寮生会員数559人でスタートしました。そしてこのうち、寮生会の役員として活動する寮生は、約150人です。これは、全体の約3割に当たる人数であり、他高専の学生寮と比較しても、規模の大きな組織であることが見て取れます。この150人で、寮生の普段の生活がより快適になるように、円滑な寮運営ができるようにと、毎日活動しています。

そして、この150人の寮生は、全員がボランティアで活動しています。当たり前だと思う方も多いかもしれませんが、しかし、役員を務めることによる負担は、意外と大きいものです。

例えば、役員には「階長」というものがあります。階

長の仕事は、階の寮生の面倒を見る、毎週連絡事項を伝える、災害時などに階のメンバーの安否を確かめる、など、多岐に渡ります。これだけの仕事を1年間、毎日続けなくてはなりません。そして当然、自分の時間を削って、これらの仕事をしていくこととなります。では、自分の時間を犠牲にしてまで役員を続けることの意味とはなんなのでしょうか。

それは、普通の学校生活では決して得られない経験ができることであると、私は考えています。私は3年間、寮生会役員を続けています。この3年間の中でも特に、階長を務めた2年次は、実に多くの経験を得られたと今でも思います。

今年度も、全寮生にとってこの1年間が少しでも良いものになるよう、役員一同、全力を尽くしていきます。保護者の皆様におかれましては、これまで通り変わらぬご支援のほど、よろしくお願いいたします。

## 教育後援会から

### 教育後援会は沼津高専の応援団です!!

教育後援会会長 大川 宏 和

まだ柔らかなネオンカラーの若葉が、次第に色濃く張りを持ち、生き生きと伸び始める季節となりました。

新入学生の皆様、その保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。

沼津高専を選び、その難関を突破し、これからの日本を背負って立つ、その一翼を担う一員として第一歩を踏み出した皆様には、これからの沼津高専での日々に、期待と不安の入り混じった、微妙な心持ちで居られることと存じます。

しかし、その不安は確実に、今後の成長、その期待は実力となって、近い未来の扉を開くことと成ります。

それは、学業、寮生活等を含め、個々の不安や葛藤、苦悩が、様々な恩師、友、先輩（後輩）等との日々の学生生活から、共有し信頼、失敗し達成、そして成功へと導き出している、これまでの幾多の高専生が証明してくれています。

沼津高専には、PTAはありません。しかし、沼津高専には、「教育後援会」があります。

文字通り、沼津高専の様々な教育に関する事柄に対しバックアップをする組織です。

2年前に、各地域での保護者の交流、活動、学生支援等を目的とした支部制度（浜松、静岡、富士、沼津、三島の5支部）、沼津高専の学校、学生のより良い環境作り、活動支援等を目的とした部会制度（教育部会、学生部会、寮生部会）が発足し、年々活発な意見交換、活動を実施し、実績を上げつつあります。

どうぞ学生諸君、君たちの周りの社会の先輩である大人が、沼津高専生としてより良い学生生活を送るために、喜んで協力する準備があることを信じて、自分たちの力に余る様な、事態、事象の時には声をかけて下さい。

どうぞ保護者の皆様、我が子を取り巻く環境の素晴らしさと、様々な課題を認識する絶好の機会です。

先生方、事務職員の方々にも、惜しみない協力をしていただいております。

皆様のご理解とご協力を重ねてお願いいたします。

教育後援会は沼津高専の応援団です!!

## 三つのポリシー

ディプロマ・ポリシーは、卒業認定の方針である。

カリキュラム・ポリシーは、教育課程編成・実施の方針である。

アドミッション・ポリシーは、入学者の受入れの方針である。

## 本科

### 【ディプロマ・ポリシー】

全課程を修了して167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定し、準学士（工学）を授与する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術に関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。

**【カリキュラム・ポリシー】**

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（社会）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学および自然科学（物理・化学）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学（国語）に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（英語）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。

**【アドミッション・ポリシー】**

以下の意欲、および学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。

1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。（知識・技能）
2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。（主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）
3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。（思考力・判断力・表現力等の能力）
4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。（思考力・判断力・表現力等の能力）

**専攻科****【ディプロマ・ポリシー】**

以下の能力を身につけ、専攻科に2年以上在学し、所定の単位修得条件の下で合計62単位以上を修得した者の修了を認定する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
  - (A-1)「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。
  - (A-2)「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
  - (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
  - (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。

- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。
- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。
- (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。

### 【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

1. 教育課程を一般科目、コース専門科目、専門共通科目、専門展開科目によって編成する。
2. 一般科目を必修科目（工学倫理、語学系）と選択科目（人文社会科学系）に分類し、必修8単位のほか、選択2単位以上を修得する。
3. コース専門科目は選択科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）のみとし、所属コースのコース専門科目を10単位以上修得する。
4. 専門共通科目を必修科目（知的財産）と選択科目（数学、自然科学系）に分類し、必修2単位のほか、選択6単位以上を修得する。
5. 専門展開科目を必修科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、専攻科実験、学外実習、実践工学演習）と選択科目に分類し、必修24単位のほか、選択10単位以上を修得する。
6. 設計・システム系、情報論理系、材料・バイオ系、力学系、および社会技術系の5科目群系に科目を分類した場合、合計6科目以上、各群系から1科目以上を修得する。
7. ディプロマ・ポリシーに示される各能力に対応する科目を1科目以上修得する。

上記7に関し、各能力と授業科目とは以下のように対応する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（人文社会科学系）、コース専門科目（環境エネルギー工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（工学倫理）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門共通科目（知的財産）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える能力
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力を身につけるため、専門共通科目（数学、自然科学系）、コース専門科目（新機能材料工学系）、専門展開科目（選択）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力を身につけるため、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、選択科目）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力を身につけるため、専門展開科目（選択）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力を身につけるため、一般科目（語学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力を身につけるため、専門展開科目（学外実習、実践工学演習、専攻科実験）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

### 【コース別カリキュラム・ポリシー】

コース専門科目は、各コースにおいて下記の方針で編成され、実施される。

- (1) 環境エネルギー工学コース  
機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、A-1, A-2, C-1, C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (2) 新機能材料工学コース  
機械工学、電気電子工学及び応用物質工学分野を支える基盤材料として、金属、セラミックス・炭素材料、高分子、生物材料の構造や物性、材料設計作成法について包括的に学修し、B-1, C-1, C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (3) 医療福祉機器開発工学コース  
機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、A-2, C-1, C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

### 【アドミッション・ポリシー】

以下の意欲、学力及び経験を有する者を受け入れる。

1. 広い視野と深い専門性を身につけて、社会の発展、公衆の福祉に寄与する意欲を有する。
  2. 工学教育を受けるために必要な数学、自然科学及び英語の学力を有する。
  3. 基礎的な工学について、一定の指導と訓練を受け、実践した経験を有する。
- これらをこれまでの学習成果、自己申告書、推薦書、試験、面接などによって確認する。



## お 知 ら せ

## 平成30年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、中学生その他の参加者に、沼津高専の興味のある学科や施設などを自分の目で自由に見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学の意味を固めていただくことを目的としてきました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

本年度1日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮食

事体験、学生会企画及びクラブ紹介、学内施設紹介などを予定しています。また、中学生及び保護者の方に好評を得ております進学説明会は、計5回実施します。この1日体験入学によって、毎年多数の中学生が本校を知り、入学を志望、決意するものと思われます。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県・愛知県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月18日(水)となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。

## 1 日 体 験 入 学

1. 日 時 平成30年8月4日(土) 9:30~15:00
2. 場 所 沼津工業高等専門学校全域
3. 実施内容
  - (1) 進学説明会
  - (2) 各学科・専攻科紹介
  - (3) 学内施設紹介

- (4) 学生会企画及びクラブ紹介
- (5) 学生寮食事体験
- (6) その他
4. 1日体験入学ホームページアドレス  
[www.numazu-ct.ac.jp/admission/opencampus/trial\\_enrollment](http://www.numazu-ct.ac.jp/admission/opencampus/trial_enrollment)



## 平成30年度(8月~3月)行事予定表

## 平成30年

**8月** 1日(休) 夏季休業(7月30日から9月7日まで)  
4日(土) 一日体験入学  
6日(月) 1~4年保護者懇談会(8日まで)

**9月** 10日(月) 授業再開  
専攻科前期試験(14日まで)  
18日(火) 本科前期末試験(24日まで)  
24日(月) 授業日  
25日(火) 臨時休業  
26日(水) 2年ミニ研究発表会  
4年工場見学(28日まで)  
27日(木) 2年特別研修  
28日(金) 振替休日(9月24日分)  
30日(日) 中学生のための体験授業

**10月** 1日(月) 専攻科後期開始  
2日(火) 本科後期開始  
14日(日) 東海北陸地区ロボコン大会  
20日(土) 1・2年TOEIC Bridge IP  
3・4年TOEIC L&R IP  
24日(水) 体育祭・学生総会

**11月** 5日(月) 授業参観・学科説明会(19日まで)  
7日(水) 文化講演会  
9日(金) 高専祭準備  
10日(土) 高専祭(11日まで)  
東海北陸地区英語プレコン  
12日(月) 高専祭片付け  
27日(火) 中間試験(30日まで)  
30日(金) テクノフォーラム

**12月** 12日(水) 専攻科入学説明会  
21日(金) 短縮授業  
25日(火) 冬季休業(1月4日まで)

## 平成31年

**1月** 7日(月) 授業再開  
16日(水) 3年インターンシップ説明会  
20日(日) 推薦入試  
26日(土) 専攻科2年生研究発表会

**2月** 5日(火) 5年卒業研究発表会  
(1~3年授業割愛)  
6日(水) 専攻科後期試験(12日まで)  
11日(月) 授業日  
13日(水) 学年末試験(19日まで)  
14日(木) 専攻科臨時休業(3月20日まで)  
15日(金) 専攻科1年生長期インターンシップ報告会  
17日(日) 学力入試  
20日(水) 臨時休業  
22日(金) 終業式・閉寮式  
25日(月) 振替休日(2月11日分)  
26日(火) 本科学年未休業(3月29日まで)

**3月** 12日(火) 就職祭  
21日(木) 卒業式・修了式  
22日(金) 専攻科学年未休業(29日まで)



「沼津高専だより」に関するお問い合わせ

出版委員会(事務担当:総務係)

Tel: 055-926-5712

E-Mail: soumu@numazu-ct.ac.jp

